

# 平成 28 年度 第 60 回 全国教員夏季研修会

期日 平成 28 年 8 月 8 日(月)～10 日(水)

会場 新横浜プリンスホテル、他



日本私立小学校連合会  
〒102 - 0073  
東京都千代田区九段北 4 - 2 - 25  
私学会館別館 6 階  
電話 03 (3261) 2934

## 国語部会

「子どもと共につくる

国語授業」の創造

森 幸彦 (甲南)

今年度も国語部会の研究テーマは「子どもと共につくる国語授業」の創造とさせていただきます。

国語科は、言葉を扱い、言葉を大切にする教科です。言葉の力を豊かに身につけることによって、自分の思いや考えをしっかりと伝えたり、他者の思いをきちんと理解したりする力をつけていく教科だと考えます。そして、子どもと共に、言葉を通して思いを伝え合うことの楽しさと豊かさを感じながら、他者理解と自己実現のある授業を目指したいと考え、この研究を設定させて頂きました。

研修会一日目は、カリタス小学校のご協力により、今年も研究授業を開催できることとなりました。

今回は、カリタス小学校の程島健介先生に四年生で授業を行って頂きます。オリジナル教材「ブナの森は

緑のダム」を使用し、話す・聞く・話し合う力をのばすことを重点目標にされた授業です。話す・聞く・話し合う力をのばすために、どのようなアプローチが考えられるのか、カリタス小学校の子どもたちの姿を通して考えていけたらと思います。

二日目の午前中は、「低学年」「中学年」「高学年」に分かれた、教材研究ワークショップです。学校の枠を超え、参加者の皆様にグループを作り、共に教材を見つめながら授業を計画します。コーディネーターを、低学年は西勝巳先生(関西大学初等部)、中学年は澄井俊哉先生(相模女子)、高学年は家城直子先生(国立音大附)にお願いしています。

午前中のワークショップは「低・中・高」に分かれますが、午後からは、「読む」「書く」「話す聞く」の三分科会に分かれての研修です。

今年度の提案者は以下の通りです。  
第一分科会は、片岡史奈先生(追手門) 新出美紀先生(目黒星美)、第二分科会は、遠藤綾子先生(横浜雙葉) 堀口史哲先生(立教女学院)、第三分科会は、遊佐恵先生(白百合) 鈴木武司先生(関西学院初等部)の合計六名の先生方による実践報告となります。

各地区で行われている実践をもとに、有意義な協議会が開かれると思います。尚、提案者が急遽変更になったこともあり、「読む、書く、話す・聞く」にあてはまらないご提案もあります。ご了承ください。

三日目は、青山由紀先生（筑波大附属小学校）に模擬授業と講演をお願いしております。高学年の説明文教材で模擬授業をしていただき、先生方に子ども気持ちになつて授業に参加していただけたらと思います。

今年度も充実した国語部会となりますように準備しております。皆様とお会いできることを楽しみにしております。

## 社会科部会

### 二十一世紀を生き抜く

### 子どもたちへの社会科教育

東原 秀郎（国立学園）

社会科部会は、今年度も研究テーマに向かってぶれずに進んでいきます。と思っています。

一日目は、聖マリア学院小学校（九州地区）の道下勝先生より「自分の思考を分かりやすく伝える子どもを目指して〜四年生『長崎県の産業の様子を調べよう』」の提案発表があります。社会科の学習で、自分が調べ考えたことを、相手にわかりやすく伝えるために、「チャート」を用いることがどのように役立ったのかを提案していただきます。

つづいて、捜真小学校（関東地区）の水野佳羊子先生より「出会いの中で育まれる平和への思い〜六年生『一年間の平和学習の取り組み』」の提案発表です。戦争体験者が少なくなる中、いかに子どもたちに平和の大切さを伝えていくかがこれからの課題と言えます。捜真小学校では、いろいろな人との出会いを学習の中に取り入れ、さらに、新聞、運動会、ポスターセッションなどの発表の場を設けました。子どもたちの心の変化と成長をご報告いただき、全国の先生方と平和教育の取り組みについて共有する場になればと思います。

二日目の午前は、横須賀学院小学校のチャペルに会場を移し、明治期以降の横須賀市を中心に、横須賀市の発展と戦争のかかわりについて講演していただきます。

二日目の午後は、四つのコースに分かれてフィールドワークに出かけます。横須賀市内にある史跡をめぐる、神私小社会科部会が追求してきたテーマのひとつ、「戦争をどうつたえるか」にせまろうと思います。

三日目は、奈良学園小学校（西日本地区）の山川丈二先生より「本物を学び、本物を知る」〜地域の伝統を生かした授業づくり〜の提案発表があります。奈良学園では、「本物を学び、本物を知る」をテーマに、一年生の時からさまざまな知的探究心を高める活動を行っています。四年生では、二年生の時に宿泊学習で訪れた吉野の地場産業である手漉き和紙を教材にし、和紙作りが千三百年も続いた秘密に迫れます。『本物』の手漉き和紙職人に出会い、子どもたちの伝統文化に対する考えが変容していく姿を紹介していただきます。

最後は、学習院初等科（東京地区）の長代大先生より、「子どもが『実感』『共感』をもって社会的現象に関わろうとする社会科教育〜フィールドワークを活かした授業づくり〜八丈フルーツレモンの教材化を通して」の提案発表があります。学習院初等科の社会科部会が昨年度訪問し

た伊豆諸島の八丈島でのフィールドワークをもとに授業づくりを行った、四年生の「島の自然を生かした人々のくらし」についての実践報告をしていただきます。フィールドワークを活かした教材開発、授業づくりの意義について、全国の先生方と意見交換ができればと思います。実り多き三日間となることを楽しみにしております。

## 算数部会

### 学び合う算数授業をめざして

福中 千鶴（百合学院）

アクティブラーニング・義務教育学校・デジタル教科書・・・教育をめぐる様々な情報が次々と入ってきます。しかし、私たちは、新しい取り組みにも対応しつつ新キーワード等に振り回されることなく、私学らしい算数教育を展開するべく研究を進めてまいりました。「学び合う算数授業をめざして」というテーマで研修するのは二年目となりました。最近の研修会は、若い先生方の割

合が高くなってきていますので、この数年は算数授業についての基礎を学ぶ「算数授業講座」などを行ってきました。今年度からは、力を付けてきた若い先生方に活躍していただくと考えています。具体的には研究発表の時間を少し短くして日ごろの実践を発表しやすくします。若い先生方が躍動してくださること楽しみにしています。

さて、一日目は、カリタス小学校の長島寛和先生に授業をお願いしました。夏休みにもかかわらず六年生の児童が参加してくれます。会場はカリタス小学校をお借りすることになりました。先生方には集合場所が他教科とは違いますのでご注意ください。長島先生は、「学び合う」とはどのような授業を目指せばいいのかお互いの言葉を聞き、問い返す授業を目指して」というテーマで「速さ」の概念をつかませる授業をしてくださいます。

二日目は午前中に昨年度の倍の六本の研究発表が行われます。低学年部会では、W会の吉川貴絵先生（立教女学院）の「『第一学年「大きな比べ」単元におけるパターンブロックを使った広さ比べの実践」、森脇葉月先生（奈良学園）の「かたちづ

くりの授業実践」です。中学年部会では、渡辺信行先生（同志社）の「数量関係」領域の指導について考える」ともなつて変わる二つの数量の関係を中心に、森勇介先生（帝京大学）の「学び合いを通して、算数好きを増やす授業づくり」です。高学年部会では三島麗雄先生（早稲田実業学校）の「統計学習の充実を図る」、守屋悠司先生（清泉）の「分数のかけ算とわり算」です。

そして、午後は毎年好評のワークショップです。また、グループ別懇談会は、昨年度のようにテーマ別になります。低・中・高学年別の算数指導（二学期の単元を中心に）、公開授業について、習熟度別指導、算数初心者、ノート指導・板書、小中連携、受験指導、悩み相談、自由な話し合いなどを予定しています。

三日目は、筑波大学教授の清水美憲先生に「算数科で育むべき資質・能力は何か―教科の特質からみた「学び合う算数」の意義」というテーマでご講演いただきます。

清水先生は学習指導要領改訂の動き、特に「論点整理」のポイントや高大接続改革の動向等を視野に、算数科で育む資質・能力に焦点を当ててお話ししてください。とても興

味深い内容で今から楽しみにしています。

この研修会が、皆様にとつて有意義な会となりますよう、運営委員と共に精一杯努力したいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 理科部会

### 部会の屋台骨を守りつつ

岡田 篤（精華）

理科部会の中心を支えるもの、すなわち屋台骨は、各先生方の個人研究発表です。三十年以上も前に先輩たちが作り上げた伝統です。講演を聴くだけでは不十分、発表者を探すのに四苦八苦するようでは本来の姿ではない、という思いのもと、「持ち寄り」による参加者全員発表システムを構築されました。この志が引き継がれ、今年も三十本近い発表が予定されています。

発表をすることにより、①研修会への参加意識が高まる、②他人の発表もより深く耳を傾けられるように

なる、③意見がもらえ、今後の向上に役立つなどの効果があります。しかし、何より発表に向けて一年間、研究、準備すること、それ自体が力を高めることにつながります。研修会当日だけが研修ではありません。当日は、一年間の取り組み、毎日の研鑽の総決算、あるいは区切りとしての発表の場となります。こうした有志二十四名がすでに発表の名乗りをあげてくれました。また、当日受付による発表も加わり、さらに増える見込みです。各先生方ご自身の関心、課題、問題意識から発した自由な発表の場です。生物、化学、物理、地学、授業論など分野、テーマは多岐にわたり、この紙面では紹介しきれませんが、必ず自分の関心をカバする発表があります。

発表を聞いた者はリアクションペーパーという用紙に、発表に対する意見や励ましの言葉を記して、発表者に手渡します。この用紙をいただくのは大変ありがたいことです。そして、これは貴重な一枚となります。時には手厳しい意見を手にする場合もあります。それもまた向上するための資料となります。私自身こ

れまでいただいたリアクションペーパーは、宝物のようにして保管して

います。

個人発表に加えて、初日は、山梨大学の掘哲夫先生に「子どもの学習履歴を基にした授業改善とその方法—OPPAを中心に—」というタイトルで講演していただきます。一枚の用紙（OPPシート）を用いて、学習者が考える授業の最重要点を学習履歴として書かせることによって学習状況を把握し、それに対して教師が授業改善を行っていく方法について理論と豊富な実践例をもとに、お話いただきます。また、三日目には、村田浩一先生（日本大学生物資源科学部教授／よこはま動物園ズーラシア園長）に「動物園を支えるサイエンス」というタイトルで、動物園には様々なサイエンスがあり、教育と調査・研究と保全によって支えられ、それらを有効に機能連携させることで、多くの人が「楽しみながら学べる」場となっていることについて紹介していただきます。

三日目の午後からは、オプシオンツアーで場所を午前中の講師の先生の話題となった「よこはま動物園ズーラシア」に移し、園内の見学、子供向けプログラムの体験やワークショップを行い、飼育係の経験のある教育普及担当の先生を講師に、動

物園の様々な学習機能についての学習を行います。現地できか得られない学びとなります。

屋台骨としての個人研究発表、講師の先生からのご講演、フィールドワークでの現地学習と、バランスよく全体プログラムが整いました。盛りだくさんの内容で楽しめました。これらのほとんどは、関東地区の先生方が準備をしてくださりました。一年間かけての講師の先生やフィールドワーク見学地との交渉、各種手配など、ご尽力に心よりお礼申し上げます。

## 音楽部会

### 音楽部研修のご案内

城 恵美子（カリタス）

今回の研修は筑波大学附属小学校の平野次郎先生をお招きして、二日間、ワークショップを行います。「教科書の半歩先を行く音楽づくりの授業アイデア」楽しいだけじゃ学ばないが、楽しいからじゃないと始まらない」

音楽づくりの実践が広がりを見せています。「なかなか活躍できなかった子が活躍するようになった」、「一人一人のよさを見つけれられるようになった」という声が届く一方、「教科書だけを頼りに授業を進めていくのは難しい」という声も聞きます。そんな時平野先生は、学習指導要領に立ち戻って、自分なりの授業を考

えることにしていらいっしやるそうです。音楽の大前提は「楽しいこと」。そして音楽の授業の大前提は「子どもが楽しめること」、「子どもにとっての音楽授業であること」、これを音楽づくりの授業で実現するために、どうしたらいいのでしょうか…。

音楽づくりでの「楽しい」は、音楽的な要素を考えながら表現することや音や音楽としてつくり上げていく過程にあります。また、音や友達とのコミュニケーションの視点も小学校教育では欠かせません。

今回は、先生方が頼りにしている教科書のほんの半歩先を行くアイデアを平野先生に紹介していただいで、みなさんと一緒に考えていきます。

二日目の午前の部は、平野先生の研修テーマに関連して、桐蔭学園の岩井先生に提案授業を行っていただ

きます。

「子どもが輝く歌唱授業を求めて」音楽の授業に組み込まれている「歌唱」ですが、学校行事の場面でも発表する機会がよくみられます。それに伴い授業で歌唱を取り扱う時間が多くなることもあるかと思いません。しかし、行事のための授業になつてしまうと、歌唱が「行事でしつかり発表するため」という位置付けになり事務的な活動になってしまふことがあります。また、低学年では元気に歌っていたけど高学年になると歌わなくなるといふ話もよく聞きます。歌声は誰もが平等に持っている楽器です。誰もが簡単に出来るからこそ授業での深め方がとても難しく感じます。子どもの元気に任せた歌唱指導で上手いけば有難いのですが、高学年になるにつれ恥ずかしいという感情も芽生えてくるためそれだけでは歌唱離れに繋がってしまう可能性もあります。

岩井先生は低学年で感じる純粹に歌う楽しさに加えて、友達と声を揃える楽しさ、ハーモニーを作る楽しさ、曲のフレーズ、歌詞と音楽の繋がりになど、より音楽の中心に触れみんなで音楽の楽しさを共有することを目標に実践を続けておられます。

高学年の日頃の実践を紹介して頂き先生方と意見交換、ワークシヨップを考えています。

三日目は鍵盤打楽器メーカー斎藤楽器さんに協力していただき、鍵盤打楽器講習会をお願いしました。

音楽室に必ずある木琴の使い方やメンテナンス、演奏法を紹介していただきます。ワークシヨップも考えています。また、現場経験のある講師による模範演奏もしていただく予定です。木琴奏法の可能性を広げて、ぜひ授業に役立ててください。

## 図工部会

### 未来につながる

### 造形との出会い

松見 信子 (横浜雙葉)

私たちは日頃、図工という分野で子どもたちと多くの時間を過ごしています。自分で思いつき、手立てを決めてやってみたことで、心の中に得た大切なものが、図工にとどまらず次に向き合うことに役立つといふなどいつも思います。なかなか簡単

にはいきませんが、子どもたちの無限の可能性を考える時、やはり「よいエネルギーを生み出す種」のようなものを少しでも多く渡したい気がします。

今年度の研修のテーマは、『未来につながる造形との出会い』です。私たちはこの三日間の研修会で、先生方の貴重な提案や数々の作品、またそれらの作品を通して見えてくる子どもたちの姿、そして初めて耳にするような知識、興味深い考察などと、様々な出会いをすることになります。子どもたちだけでなく私たち教員にとっても、今後、より意欲的に進んでいけるような何かを見つけていただける三日間であるようにとの願いを込めました。

さて、研修概要ですが、初日は、相原史隆先生 (昭和女子大学附属昭和)、瓜阪萌子先生 (近畿大学附属) のお二人から、二日目の午前は神山素来先生 (桐蔭学園) から、それぞれアプローチの異なる提案発表を伺います。

二日目午後は、横浜駅にも近いギャラリー『FEI ART MUSEUM YOKOHAMA』に移動してのフィールドワークを予定しています。同ギャラリーの企画展「美術が

あたえてくれるもの」に参加する形で、前半は恒例の〈美術マーケット〉を行います。事前に送っていたいただいたマーケット参加の児童作品と共に、指導する立場におられる先生方の作品も合わせて展示する試みで、お互いに意見交換しながら、先生方の日頃の取り組みを通して美術教育の必要性を再考していきたいと思えます。日私小連図工部会以外の学校・教育現場からの参加もある予定です。後半の〈ワークシヨップ〉では、絵の具メーカー「クサカベ」の担当の方から絵の具の組織を学び、普段の使う側から一転、水彩絵の具の作り方を実際に体験します。

三日目は、菅 俊一氏 (映像作家・多摩美術大学美術学部統合デザイン学科講師) による講演「見えないつながりを発見する」です。氏は、人間の知覚能力に基づく新しい表現のあり方を研究されていて、映像や展示、著述をはじめとした様々な分野で活動しておられます。NHK Eテレ「0655/2353」の制作でご存知の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。今回の講演では、氏これまでの制作の実例を用いて、『日常の観察から抽象的なつながりの発見を繰り返す、それに基づく仮説を

立てて検証し、新しい表現を生み出す方法論』について解説してください。才能がないからと悩んだり、「発想する」「思いつく」といったところに大きなコンプレックスを持つている人が非常に多いという現状から発したユニークな考察です。

この八月、再び先生方にお会いできることを、そして共に研修できることを今から楽しみにしております。

## 保健体育部会

### 二十一世紀を生きる

### 子どものための保健体育

寺内 正彦 (学習院)

保健体育部会では、今年も保健・体育と二つの分科会で行いますが、全体会ではできるだけ共通する内容を取り上げます。

一日目は、全体会で日本大学文理学部准教授の松本恵氏による講演「小学生の水分補給の大切さと朝食の大切さ」を予定しています。二日目以降は、保健・体育と分か

れて研修を行います。

体育分科会の午前は、自由学園初等部の森井宏之教諭による提案発表「デンマークのオレロップ体育アカデミー・体操エリートチームの取り組み」と甲南小学校の木村壮宏教諭の実践発表「ソフトバレーボール」を予定しています。午後は、森村学園をお借りして東海大学体育学部教授の高野進氏による「かけっこクリニック&指導者研修」という内容で実技研修を行います。

保健分科会の午前は、順天堂大学教授の桐野衛二氏による講演「メンタルクリニック外来から見た発達障害」を予定しています。午後は、特定非営利活動法人ドラマケーション普及センター理事長の三嶋浩二氏による「コミュニケーション能力向上を目指して」という内容で講演と実技研修を予定しています。

三日目、体育分科会では、湘南白百合小学校の伊東栄奈教諭と山口祥治教諭と関水日実子教諭による提案発表「我が校の保健について」を予定しています。

保健分科会では、ワークショップ「養護教諭の資質向上にむけてのワールドカフェ」を予定しています。今回も期待できる内容を準備して

います。

横浜の地で皆様とお目にかかれること、そして、共に研修できることを今から心待ちにしています。

## 学級経営部会

### つなげるつながる学級経営

岸浪 裕史（湘南白百合学園）

部会のテーマにありますように、つながり合う学級を目指して、今年度も取り組んで参ります。その上で、教師がどのような関わりをもつて、つながり合う関係を深めていけば良いのか、研修を通して多くのことを学んでいきたいと思えます。

一日目は、大阪教育大学大学院連合教職実践研究科教授の家近早苗先生をお招きします。子どもや保護者との好ましい人間関係や集団を作るには、相手の話を聞くこと（カウゼリング）や子ども様子の観察や子どもとの関わりの中から気づくこと（アセスメント）などが必要になります。学級経営に活かせるカウゼリングの考え方や技法について

学び、演習を通して具体的な場面に応用できるよう、ご指導頂く予定です。

二日目の午前中は、上越教育大学教職大学院教授の赤坂真二先生をお招きします。学力向上の基盤は、学級集団づくり、だと言われます。しかし、学級集団づくりは、必要感がありながら実はあまり学ばれていない領域です。教育的機能の高い学級集団づくりの考え方や方法論を、一日かけて、講義やディスカッションを通して学んでいく予定です。

三日目の講師は、浄智寺住職の朝比奈恵恩氏です。鎌倉時代に起こった日本の仏教文化（坐禅）を体験的に学ぶことができます。場所は、臨濟宗円覚寺派の大本山であり、鎌倉五山第二位の円覚寺です。香を焚き染めた静寂な雰囲気の中で、呼吸法や座る姿勢を教えていただきます。心身ともに、浄化できるよい機会です。是非、ご参加ください。

研修を通して、学級としてのつながりを深めていくための方法を、先生方が一つでも多く学び、明日への実践に活かして頂ければ幸いです。よろしくお願ひ致します。

## メディア教育部会

### メディア教育部

#### 研修会の内容

横山 治樹（桐光学園）

「ICTを活用して、気になることをしてみませんか。」今年度のメディア教育部の研修会も、たくさんの方の助力を得て、様々な実践報告を行う予定です。

高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部が発表した「世界最先端IT 国家創造宣言 行程表」には、学校現場へのIT整備の導入を平成三十一年までに完了させる方針が打ち出されています。それに合わせて全国の小学校でも続々と導入が進んでいます。その流れは私立小学校としても無視できるものではありません。

そこで、導入を進めていくうえで直面した苦勞を共有し、各校の導入に生かしていたらどうと考えています。

また、機器を導入する際には、学校現場でどのようなことをしたいの

かという目的が重要になります。そこで、話題となつてゐる次の事柄について、実践報告をしてみらおうと考えています。

#### 「タブレットの使い方」

話題のタブレット、導入して何をするのか。何ができるのか。

#### 「インターネットを利用したe-learningの実践報告と今後の展望」

インターネットを利用して子どもたちが学習できるという環境は、時と場所を選ばず、一人ひとりにあつた取り組みが可能です。

#### 「プログラミング教育の実践報告」

小学校で導入するプログラミング教育、どんなことができるのでしょうか。

#### 「ロイロノートのワークショップ」

近年、利用校数が急激に伸びているロイロノートはどのようなものか。どのような使い方ができるのか。

#### 「ロイロノートを利用しながらのフィールドワーク」

タブレットを使った校外学習が可能にする学習活動とその楽しさとは何か。

まだまだ各校考えていかなければならないことが多いこの分野、各学校で先頭に立って活躍されています。

しゃる方から、よくわからないけれども使ってみたいと考えている方まで楽しんでいただける内容です。昨今話題に挙がるこれらのことに少しでも興味を持たれた方のたくさん参加をお待ちしております。

## 学校図書館部会

### 人・学びのかけはしとなる

#### 学校図書館を目指して

大澤 育子（武蔵野東）

学校図書館部会は、「人・学びのかけはしとなる学校図書館を目指して」をテーマに研修を進めていきます。

一日目は、『あなたも名探偵』シリーズや『怪盗シヨコラ』シリーズ等の楽しいお話で子どもたちに大人気の杉山亮先生の講演「ものがたりをどう語るか、なぜ語るか」を聞きます。杉山先生は、小淵沢のご自宅で十年間に渡つて「ものがたりライブ」を開催してきました。その体験から分かった「ものがたり」の大切さについてお話してくださいませ。

また、お話の実演もしてくださいませ。どんなお話が飛び出すか、とても楽しみます。先生方が、子どもたちへ「ものがたり」を聞かせる時の参考になるのではと思います。

二日目の午前は、「教育課程と学校図書館―歴史から考える―」という演題で、東京学芸大学附属小金井小学校・司書の中山美由紀先生の講演をお聞きます。学校図書館は二十世紀初頭に子どもの自主性・自発性を重んじる新教育運動とともに誕生しました。日本でも大正自由教育の時代に児童図書室として始まり

ました。その当時、どのような教育が学校図書館で行われていたかを振り返ります。さらに戦後どのような道筋をたどり、何が課題であったのかを考えていきます。子どもたちを自ら課題を発見し、自ら解決できる自立した学習者に育てる学校図書館のあり方を探ります。教育課程でどのように学校図書館が位置付けられているか、今後学校図書館がどのように各教科の授業と関わりを持つていくのか、どのようにアプローチすべきなのかを考えていきます。中山先生の実践も合わせてお聞きしていきます。

また、お話の実演もしてくださいませ。先生方が、子どもたちへ「ものがたり」を聞かせる時の参考になるのではと思います。

三日目は、フィールドワークとして神奈川近代文学館を訪問します。神奈川近代文学館は一九八四年に神奈川県ゆかりの作家や文学作品に関する資料等の収集、保存、展示を目的に作られました。博物館と日本近代文学専門の図書館とイベントホルの三つの機能を併せ持つ総合文学館です。今回は、企画展「絵本作家・西村繁男の世界展 やこうれつしゃで出発!」を中心に見学します。絵本、原画をはじめ、取材手帳、ラフスケッチなどの資料等を鑑賞します。主な絵本の背景となる「昭和」という時代も顧みられる楽しい展示会です。学芸員の方のお話も聞かせていただきます。常設展「文学の森へ 神奈川県と作家たち」では、芥川龍之介、川端康成、谷崎潤一郎などの貴重な資料も合わせて鑑賞できます。

このように盛りだくさんな内容の

研修会となっています。ぜひ、今後の図書館運営にこの研修会で学んだことを生かしていつてほしいと考えています。多くの先生方の参加をお待ちしています。

## 外国語部会

### 私学における

#### 外国語教育の在り方

前川 紀子 (さとえ学園)

第一日目は東京家政大学教授の小泉仁氏をお招きし、「本当の言語教育とは？グローバル化する社会における外国語教員の役割」という題名でご講演いただきます。「英語教育大変革」の時代到来に伴い、今回の講演では、私学・公立を問わず今後直面する英語教育改革の方向性を、文部科学省行政を超えた大きな視点から論じていただきます。多方面で「グローバル化」が叫ばれる現在、もはや英語教育の目的は、英米のネイティブスピーカーに近づくことよりもむしろ、地球規模の対人関係を構築する能力の育成に寄与するもの

として理解されるようになっていきました。明治以来、日本の小学校英語をリードしてきた私立小学校の英語教育は、価値観の多様化するこれからの時代においてどのような理念を共有していくべきなのか、そして近い将来、この世界に力強く歩み出て行く児童たちのために、どのような英語教育を進めていくのか、参加者全員で考える機会になればと思っております。

第二日目は、各地区より日頃の各校での研究や取り組みについてご報告いただきます。北海道・東北地区からは、会津若松ザベリオ学園のサベツジ順子先生と江川クレア先生による「英語を通して行う他教科の発展学習 Science in English - Life Cycle」について。六年生で実施した英語を通して行う理科の学習についてご発表いただきました。東京地区からは、田園調布雙葉の海崎百合子先生による「多読の取り組み」について。低学年の絵本の読み聞かせの延長線上に位置づけ取り組んでいる多読について、導入する際の準備のことから子どもたちの感じていることまで一般的な取り組みについてご発表いただきました。西日本地区からは、百合学院の

Bill Allen 先生による「Reading Time」について。三・四年生を対象に行っている十分間のリーディングプログラムについてご発表いただきます。

午後は、テーマ別ディスカッションを行います。二〇二〇年の英語の教科化に向けて、「読む」「聞く」「書く」「話す」の四技能指導の方法について意見交換したいと考えております。教え方で悩んでいることについてアドバイスを求めたり、効果的な活動アイデアを共有したり、参加者同士が高めあえる機会になればと思っております。

第三日目は、ワークショップを行います。「子どもが思わず英語を使いたくなるアクティビティ」と題し、東京・関東地区を中心とする教員有志より日々の授業で行っている効果的な活動を紹介していただきます。子どもたちに「覚えこませる」のではなく、先生の英語を聞くうちに子どもの口から思わず英語が出てしまった・・・そんな状況を作り出す活動をたくさん教えていただきます。

体験までバリエーションに富んだ内容になっています。ご参加をお待ちしております。

## 家庭科部会

### 個人の物語を

#### 編んでいく家庭科

秦 睦子 (森村学園)

衣食住を中心に、生活することを学習する家庭科の研修として、次のことを設定しました。二日目は、家庭科の授業発表を中心に、一日目と三日目は、開催地横浜に関連した研修をします。

二日目午前中に、元埼玉県立高等学校家庭科教師の小平陽一氏の講演「家庭科が拓く未来への学び」を行います。化学教師だった小平氏は、その時代や社会を知り、生徒に、生活や生き方を見つめさせたいとの思いで、家庭科教師に転向されました。生徒が自身の生活を織り成していくことができる多様な切り口などお話を伺います。午後は、東京地区から成蹊小学校の鈴木宏明先生が「エコ



バックを作ろう、使おう」の提案発表をされます。自分で作ったオリジナルの袋で買い物をして終了ではなく、その結果をパワーポイントを使ってプレゼンテーションした発表の発表です。西日本からの提案発表は、四天王寺小学校の高見英子先生による「今から始めよう！災害時の備え『食と防災』」です。私たちは防災活動をしたり防災グッズなど揃えて災害時に困らないように関心を持って生活しています。その中で、災害時での食の大切さについて取り上げた授業の発表です。

横浜についての知識を深めていただく機会を、一日目と三日目に設定しました。横浜の地域情報紙において横浜北部の郷土史を研究調査した記事を長年にわたり執筆されている廣田商事営業促進課課長、ひろたりあん通信編集長の宮澤高広氏をお呼びし、現在連載中の「地名推理ファイル・絹の道を往く探訪編」を題材に横浜の歴史についてお話していただきます。

そして、三日目には、シルク博物館（予定）に場所を移し研修します。横浜開港当初から、S・SHOBEYというブランドを展開し開国後の日本で初めて一人で海外との交易

をおこなった椎野正兵衛の四代目、椎野秀聰氏から、純日本製の絹織物や日本のシルクの現状などのお話を伺います。そして、馬車道にある横浜の老舗洋装店『信濃屋』を訪問し、S・SHOBEYの製品を見学いたします。

## 生活・総合部会

### 自然・命の連携を

秋本 篤志（鎌倉女子大）

生活・総合部会では、「子どもとつくる生活科・総合的な学習」というテーマで研修を行ってまいります。その中でも今年度は特に自然との関わりを通して「命」について考えることのできる実践内容を取り扱っていく予定です。

第一日目は、講師に大門由美子先生（公益社団法人福井県獣医師会理事、学校飼育動物事業委員会委員長）を迎え、「学校における飼育動物の活用について」講演をしていただきます。これまでに多くの小学校で学校飼育動物に関する授業支援を行っ

てこられてきた経験から、学校でどのように飼育動物を活かした実践を行うことができるかについてのお話を楽しみ思っております。

つづいて、関東地区から「生活科における動物飼育に関する考察」ということで、相模女子大学小学部のお話に引き続き、学校教員の立場からの発表から、更に話を深めていくことができるのではないかと思います。

二日目、午前中には各地区からの発表となります。東京地区から「あさがおの実践を通して主体的に活動する姿勢を育てる」という生活科の実践発表です。あさがおの栽培という生活科の中では、いまや定番と言われている教材を用いて、生命尊重と気づきの質を高めていく方法の提案から学べそうです。

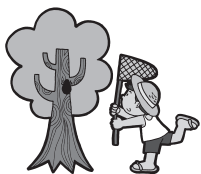
西日本地区からは、奈良学園小学校の飼育・栽培教材を通しての学びを紹介していただきます。人とのつながりを大切に「和の精神」を基に、異学年交流やペア学習・グループ学習を軸とした活動を中心とした学びから、こちらも命を感じることでできる授業づくりの参考にさせていただきますことができるのではないで

しょうか。

午後からは、九州地区の平成二十七年年度の研修報告です。生活科の「あきとなかよし」の実践報告に加え、スタートカリキュラム・幼小連携についての提案があります。各私立小学校での幼小連携の実態についての情報交換会を企画しています。私立小学校ならではの取り組みについて参加者からの活発な意見交流ができるのではないかと楽しみにしています。

三日目には、草木工房（草木染研究所柿生工房）主宰の山崎和樹氏をお招きして、草木染についてお話をお伺いします。また、子どもたちと一緒に活動できるような草木染を紹介していただくワークショップも準備しています。

三日間が実りある研修になるよう、努めていきたいと思っております。また、多くの先生方とお目にかかれること、そして、共に研修できることを今から心待ちにしています。



## 学校劇部会

### お互いを高め合う表現活動 子どもたちと共に

山本 茂男（森村学園）

学校劇部会も今年で五回目の全国夏季研修会となりました。これも偏に皆様の『学校劇』に対するご理解とご関心のおかげであると思えます。

今年も、皆さんで楽しく和気藹藹の雰囲気の中で教師自らの表現力を高め、有意義な研修にしていききたいと考えています。

「子どもたちと共に」という柱の元に三日間の流れを考えました。

初日は、山本の基調提案から始まり、ほぐしの活動を坂田道則先生（相模女子大）、そして久保田直子先生（聖徳大学附属）木越憲輝先生（聖学院）古屋有子先生（国本）らによる『場面づくり』の実技提案をします。「劇づくり」の中で子ども達に共通の認識として知ってほしいことはセリフのある子だけが劇を作っているのではないということ

です。これは、子ども達の学校生活全体に関わる考え方にも通じるものです。そのようなことを「場面づくり」の実習の中で考えていきましょう。

二日目の午前は、河原崇之先生（森村学園）のほぐしの活動の後、川窪章資先生（森村学園）坂田道則先生による実技提案『創作劇につながる実習』を行います。子ども達の気持ちになって「クリエイティブドラマ」のプログラムを体験していただきます。

二日目の午後は、新保えみ先生（湘南白百合学園）のほぐしの活動の後、山本から『児童との協同創作劇の実践と発表まで』という実践報告をさせていただきます。十数年前にクラスの子も達と共に劇づくりをした模様をお伝えし、また実際に子ども達の取り組んだ実践を参加者の皆さんが追体験することも行いながら、子どもたちと共に創る創作劇の意義等を考えていききたいと思えます。

そして三日目です。今回関東地区が主催ですので、遠方から参加して下さる方々に是非、神奈川県に三百年前から脈々と継承されている国指定重要無形民俗文化財『相模人形』に触れて頂きたいと考えました。

前半に、相模人形芝居「長谷座」座長の山口熱子先生をお招きし、実

際に相模人形に触れながら、その動き方の基本を学びたいと思います。後半は、大澤勇太先生（七沢希望の丘）が、子どもたちと共に相模人形を使った劇の発表までのとりくみの実践報告をします。

劇の上演の機会のない学校現場にお勤めの先生方も、ご参加頂ければ、必ず三日間の研修を通して、ご自身の解放と表現力アップの実感を感じられると思います。また、教師の一方的な指導や注入ではなく、「子どもたちと共に」というスタンスに立つことが、いかに子ども達の主体性を伸ばしていけるのか、ということを考えていくきっかけになっていくことと思えます。

### 全国教頭研修会のご案内

近藤由紀彦（慶應横浜）

関東地区が担当した前回の教頭研修会は、横須賀軍港めぐりや横浜の街を探索しました。

今回はこれまでの新横浜から少し足を伸ばして箱根まで行くことにいたしました。折角、箱根へ行くのですから大涌谷周辺のフィールドワークを行いたいという計画もありましたが、噴火の影響でそのプランは断念せざるを得ませんでした。

初日の昼に小田原駅に集合していただきます。箱根湯本までの途中には小中学生の体験学習に打ってつけのポイントがあります。ご参加の先生方にたっぷり体験をしていただきます。

平成 28 年度 第 40 回

## 全国教頭研修会

期日 平成 28 年 8 月 7 日(日)～8 日(月)  
会場 ホテル 河 鹿 荘、他

夕食後に各地区による報告をお願いいたします。

以下は日程の概要です。

◇日程 八月七日(日)・八日(月)

◇会場 鈴鹿かまぼこ博物館

本間寄木美術館

河鹿荘

◇宿泊 ホテル河鹿荘(箱根湯本)

◇集合 十二時四十五分

小田原駅西口

八月七日(日) 研修1

小田原駅出発(バス二台)

〔グループA〕 竹輪&蒲鉾作り

↓寄木細工作り

〔グループB〕 寄木細工作り

↓竹輪&蒲鉾作り

ホテル河鹿荘着

入浴 夕食 懇親会

各地区紹介

※男女別三、四名の相部屋です。何

卒ご了承ください。部屋割は同地

区の方と一緒にならないように配

慮いたします。

八月八日(月) 研修2

講演「教師の専門的力量とはなにか

―日米比較の観点から―

講師 佐久間亜紀

(慶應義塾大学教職課程センター)

講師略歴 早稲田大学教育学部卒

業。東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士(教育学)。東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター准教授などを経て、現職。日本教育方法学会全国常任理事、日本教師教育学会理事。授業研究会

「第三土曜の会」主宰。専門は、教育方法学、教師教育論。教師の力量

形成を研究・実践し、各地の学校現場で授業づくりに取り組んでいる。

著書に『現代日本の教師』(放送大学教育振興会、二〇一五年)など。

質疑応答

研修会終了後、小田原駅へ向かう

グループと新横浜へ向かうグループ

に分かれてバスに乗車します。

■全国教頭研修会

関東地区運営委員(係分担)

司会 澄井俊哉(相模)、記録 辻

望(関東学院)、会計 前田邦子(湘

南白百合) / 門家誠(聖マリア)、

懇親会・司会 佐藤陽明(平和) /

鶴崎 寿(関東学院六浦)、案内 鈴

廣 大和友子(横浜英和)、[本間寄

木工房] 馬場淳(桐光)、受付(宿

舎) 鈴木千尋(鎌倉女子)、バス担当

(点呼) 大島三奈子(七沢希望の丘)

/ 古園みどり(清泉)、写真 内藤

伸人(捜真) / 林田英一郎(湘南学

園)、研究集録 大野達夫(精華)、

案内・要項作成等 近藤由紀彦(慶

應横浜)

■全国教頭研修会 地区別運営委員

北海道・東北地区

馬場 泰(会津若松ザベリオ)

東京地区

市川 智(武蔵野東)

関東地区

近藤由紀彦(慶應横浜)

西日本地区

藤田 准一(甲南)

九州地区

溝田 勝(精道三川台)

平成二十八年年度

日私小連定期理事会報告

六月十日(金) 東京市ヶ谷のアル

カディア市ヶ谷(私学会館)に於い

て、平成二十八年年度日私小連定期理

事会が開催されました。平成二十七

年度事業等報告と平成二十八年年度事

業等計画について協議が行われ、承

認されました。引き続き役員改選が

あり、新会長に小泉清裕先生(昭和

女子大学附属昭和小学校)が選任さ

れました。また、全国教員夏季研修

会の部会担当理事の選任、全国幹部

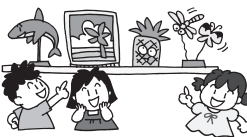
研修会の準備状況の報告があり、滞

りなく終了しました。

詳細は、各学校にお届けしました

平成二十八年年度理事会報告書

をご覧ください。



## 平成 28 年度 日本私立小学校連合会役員

地 区 名	役 職 名	氏 名	学 校 名
東 京	会 長	小 泉 清 裕	昭和女子大学附属昭和小学校
東 京	副 会 長	佐 藤 正 吉	暁星小学校
関 東	"	斎 藤 滋	桐光学園小学校
西 日 本	"	山 本 義 和	須磨浦小学校
北海道・東北	"	滝 田 文 夫	郡山ザベリ才学園小学校
九 州	"	坂 井 睦	精道三川台小学校
東 京	常 任 理 事	和 智 紀 朗	宝仙学園小学校
"	"	宮 城 千 鶴 子	聖トミニコ学園
"	"	重 永 睦 夫	東京都市大学付属小学校
"	"	大 場 繁	成蹊小学校
"	"	木 村 修 二	武蔵野東小学校
"	"	中 村 貞 雄	青山学院初等部
"	"	加 藤 陸 雄	成城学園初等学校
"	"	児 玉 宏 之	国立学園小学校
関 東	理 事	岡 崎 一 実	関東学院小学校
"	"	澤 野 誠	湘南白百合学園小学校
西 日 本	"	山 北 浩 之	城南学園小学校
"	"	池 田 節	帝塚山小学校
"	"	石 田 成 光	雲雀丘学園小学校
北海道・東北	"	関 博 之	会津若松ザベリ才学園小学校
九 州	"	中 村 和 子	福岡雙葉小学校
東 京	監 事	味 形 修	明星小学校
関 東	"	大 庭 照 雄	精華小学校

## 平成 28 年度 日私小連全国教員夏季研修会部会担当理事及び委員長

No.	部会名	担当理事	学 校 名	委員長	学 校 名
1	国 語	重 永 睦 夫	東京都市大学付属小学校	森 幸 彦	甲南小学校
2	社 会	石 田 成 光	雲雀丘学園小学校	東 原 秀 郎	国立学園小学校
3	算 数	児 玉 宏 之	国立学園小学校	福 中 千 鶴	百合学院小学校
4	理 科	澤 野 誠	湘南白百合学園小学校	岡 田 篤	精華小学校
5	音 楽	宮 城 千 鶴 子	聖トミニコ学園	城 恵 美 子	カリタス小学校
6	図 工	滝 田 文 夫	郡山ザベリ才学園小学校	松 見 信 子	横浜雙葉小学校
7	保 健 体 育	木 村 修 二	武蔵野東小学校	寺 内 正 彦	学習院初等科
8	学 級 経 営	池 田 節	帝塚山小学校	岸 浪 裕 史	湘南白百合学園小学校
9	メディア教育	坂 井 睦	精道三川台小学校	横 山 治 樹	桐光学園小学校
10	学校図書館	岡 崎 一 実	関東学院小学校	大 澤 育 子	武蔵野東小学校
11	外 国 語	中 村 貞 雄	青山学院初等部	前 川 紀 子	さとえ学園小学校
12	家 庭 科	斎 藤 滋	桐光学園小学校	秦 睦 子	森村学園初等部
13	生 活 ・ 総 合	佐 藤 正 吉	暁星小学校	秋 本 篤 志	鎌倉女子大学初等部
14	学 校 劇	加 藤 陸 雄	成城学園初等学校	山 本 茂 男	森村学園初等部

## 平成 28 年度 理事長・校長の異動 他

## 1. 理事長・校長の異動

(敬称略)

No.	学校名	理 事 長		校 長	
		新 任	前 任 者	新 任	前 任 者
<b>東 京 地 区</b>					
5	東洋英和女学院小学校	深町 正信	水澤 郁夫	—	—
6	愛育養護学校	—	—	西原 彰宏	板野 昌儀
10	トキワ松学園小学校	岡本 信明	眞柄 泰基	—	—
11	目黒星美学園小学校	鈴木 裕子	上原 順子	—	—
12	清明学園初等学校	—	—	横山 豊治	加藤 一俊
18	和光小学校	古関 彰一	奥平 康照	—	—
23	青山学院初等部	保田 宣彌	安藤孝四郎	—	—
35	聖徳学園小学校	岩崎 治樹	長尾 央	—	—
37	明星学園小学校	—	—	福田 純一	平田 和孝
42	菅生学園初等学校	—	—	丹治 充	小林なほみ
46	和光鶴川小学校	古関 彰一	奥平 康照	加川 博道	園田 洋一
48	東京創価小学校	原田 光治	長谷川重夫	—	—
<b>関 東 地 区</b>					
55	横浜英和小学校	山根 誠之	永井 輝男	—	—
61	聖ヨゼフ学園小学校	—	—	荒屋 勝寿	芝田 伸之
67	カリタス小学校	—	—	内藤 貞子	萩原千加子
69	湘南学園小学校	—	—	河本 洋子	榎本 勝己
70	湘南白百合学園小学校	水原 洋子	深堀シツ子	—	—
73	清泉小学校	—	—	大西 貞弘	齋藤 一子
78	聖セシリア小学校	—	—	渡辺 勝之	服部 啓明
83	聖坂養護学校小学部	—	—	佐野 明紀	松井 務
86	東海大学付属静岡翔洋小学校	—	—	小寺 健仁	鮎川真由美
88	常葉大学教育学部附属橘小学校	—	—	永田 研	柴田 幸洋
92	西武学園文理小学校	—	—	伊藤 邦義	佐藤 仁美
99	成田高等学校付属小学校	—	—	田中 康之	大澤 浩一
<b>西 日 本 地 区</b>					
107	甲南小学校	—	—	祢津 芳信	大谷 彰良
112	関西学院初等部	—	—	田近 敏之	福田 靖弘
118	帝塚山学院小学校	野村 正朗	石川 啓	谷 啓介	有村 俊治
124	聖母被昇天学院小学校	—	—	武井明比古	森川マリ子
126	賢明学院小学校	—	—	北村 昌江	南 登章生
128	P L 学園小学校	乾 浩一	小野 久彦	—	—
130	関西創価小学校	原田 光治	長谷川重夫	—	—
131	建国小学校	高 敬弼	金 聖大	—	—
132	金剛学園小学校	趙 栄吉	梁 廣相	—	—
137	天理小学校	深谷善太郎	安野 嘉彦	篠森 靖治	後藤 典郎
139	ノートルダム学院小学校	—	—	川端 博之	行田 隆一
147	椛山女学園大学附属小学校	—	—	森 和久	河野 康介
151	岐阜聖徳学園大学附属小学校	—	—	桑原 常晴	武山 正光
152	帝京大学可児小学校	—	—	八橋 裕文	古木 純司
153	北陸学院小学校	—	—	中島 賢介	戸田 教一
156	就実小学校	西井 泰彦	千葉 喬三	—	—
<b>北海道・東北地区</b>					
173	会津若松ザベリオ学園小学校	守屋 博子	高橋 博	関 博之	堀江 哲治
175	郡山ザベリオ学園小学校	守屋 博子	高橋 博	—	—
<b>九 州 地 区</b>					
178	明治学園小学校	—	—	本田 正憲	鶴野 篤子
185	鹿児島三育小学校	—	—	鈴木 信治	佐々木 求
187	沖縄カトリック小学校	—	—	夏見 隆晴	幸 聖二郎
188	沖縄三育小学校	尾上 史郎	李 根完	—	—

## 2. 新加盟校

西日本地区

英数学館小学校

理事長：加計 役 校長：藤井 良明  
〒721-8502 広島県福山市引野町 980-1

北海道・東北地区

ホライゾン学園仙台小学校

理事長：アルスラン ムスタファ 校長：アルク バリッシュ  
〒981-3203 宮城県仙台市泉区高森 4-2-540

## 3. 所在地等変更

九州地区

福岡雙葉小学校

〒810-0027 福岡県福岡市中央区御所ヶ谷 7-1  
電話：092-531-1215 FAX：092-531-1245

## 2010 年代の教育宣言

今や、地球規模で激動する 2010 年代を迎えました。私たち私立小学校は、著しい社会変化と科学技術の高度化が進展する時代の中で、建学の精神を継承するとともに伝統を重んじ、その使命とする理想の教育をめざし、誇りをもって初等教育の先駆的な実践を世に問うてきました。

21 世紀は「知識基盤社会」の時代であるといわれています。その一方で「心」の時代でもあります。私たち私立小学校は、個人の自由と人権および児童一人一人の個性を尊び、その内なる可能性を児童愛をもって引き出す方法を実践・探究し、未来を切り拓いていく基礎的資質と心豊かな人間性を育成します。

併せて、真の世界平和と持続可能な自然環境の維持のために、広い視野をもって考え、共感する力を身につけた児童を育成します。

そのため、私たち私立小学校は、伝統と特色ある教育をさらに充実させ、私学人としての自覚に立ち、お互いに協力結束し磨き合い、わが国初等教育の新たな創造をめざすことをここに宣言します。

2010（平成 22）年 6 月 11 日

日本私立小学校連合会